

第6回 5モデルのサウンドを比較検証。 自分に合うマイクを見つけよう！ SENNHEISER e 935/e 945/e 965 NEUMANN KM 184/KM 185

「声」を楽器にするボーカリストにとって、その声を活かすためのマイクは何よりも大切です。音声を電気信号に変換する。仕組みだけ見れば、たったこれだけのことです。しかし、声が一番最初に通る場所であり、各マイク・メーカーやモデルによって目指しているサウンドは様々なので、出てくる音がまったく異なるのは当然と言っても良いかもしれません。今回はSENNHEISERの人気ハンドヘルド・マイク3本と、NEUMANNの2本の合計5本のマイクによる音の違いを検証してみました。

マイクは楽器！

マイクなんてスタジオにもライブハウスにも置いてあるし、そんなに変わらないでしょ？という人は、よく耳にする話ですが、果たして本当にそうなのでしょうか。楽器を演奏する人ならご存じの通り、同じ音の楽器は存在しません。ギターやベースは、たとえ同じシリーズ/モデルであったとしても1本1本、微妙に音が違うのはもちろん、電子楽器もモデルによってまったく音が違います。マイクもそれと同じなのです。「声」という空気の振動を電気信号に変えるというのがマイクの主な働きですが、各メーカーごとに明確にサウンド・キャラクターがあり、モデルが違えば音が変わってくるのは当たり前なのです。

当然のことを言っているように感じる方もいると思いますが、ボーカリストの中にはマイクは特に気にしない...という人が少なくありません。それなら、比べてみようじゃないか！ということで、6本のマイクのスクランブル・テストを行いました。用意したのはSENNHEISERからe 935、e 945、e 965の3モデルと、NEUMANNからKM 184とKM 185の2モデル。さらに、リファレンスとしてリハーサル・スタジオやライブハウスでよく見かける、定番のSHURE SM58の計6本です。それらをDAWソフトに録音して、サウンドを比較するという方法を採用。一般ユーザーの率直な印象を伺うため、大学の軽音楽サークルでボーカルを担当し、普段はSM58を使用している小田彩文さんにご協力いただきました。各製品の解説も含めて、見ていきましょう。

ライブのスタンダード

編集部（以下、編）：では早速、1本目から聴いてみましょう。まずはSENNHEISERのe 935です。ダイナミック・マイクで単一指向性。ライブ用途では一番使いやすいマイクだと思いますが、聴いた感じはいかがでしたか？

小田彩文（以下、小）：実は私、これまでマイクを気にしたことがなくて...。軽音楽サークルでは、そこにあるものを何となく使っていたんですが、こんなにも音が違うものなんですね。SM58は「よく聞く、いつもの音」という感じで聞き馴染みはあるのですが、e 935の方が単純に良い音だな...と思いました。

編：良い音というのは、具体的にどのあたりが違って聞こえましたか？

小：声がまとまって聞こえるという...。聴き比べると、SM58よりもe 935の方がクリアで、聴きやすいと思いました。「高級な音」という印象です。

編：SENNHEISERのマイクは「声をありのままに届ける」というコンセプトで作られているそうで、ハイエンドまできちんと伸びているということも無関係ではないと思います。荒々しさのようなものがなく、クリアで素直な音。輪



写真1 今回のテストで比較した6本。左からSHURE SM58、NEUMANN KM 184、KM185、SENNHEISER e 935、e 945、e 965。どれもマイクとして高いクオリティを持つモデルですが、サウンドはまったく違います

郭がはっきりしているので、オケの中でもヌケてくるような音ですね。続いて、e 945を聴いてみましょう。

小：e 935と同じように、高級な音ですね。どちらかと言うと、e 935の方が芯があるけど、高域はe 945の方が綺麗に感じました。この2本は何が違うんですか？

編：e 945はスーパーカーディオイドなんです。

小：すみません、指向性って何ですか？

編：簡単に言うと、そのマイクが音を拾うことのできる範囲のことです。e 935のような単一指向性のマイクは、マイクの前面からの音だけを拾うように設計されているんですが、e 945はスーパーカーディオイドと言って、さらに指向性を狭めたマイクなんです。そのため、マイクに他の楽器の音が入ってしまうのを防ぐことができます。結果、ハウリングが起りにくくなるんです。声を出しながら、マイクと口の角度を変えてみるとわかりますよ。

小：あ、ホントだ...。e 945はマイクと口の角度が少しズレルだけでも、音が変わってしまうんですね。ハウリ

SENNHEISER / e 935



タイプ：ダイナミック・マイクロホン
指向性：単一指向性
周波数特性：40Hz~16KHz
寸法：47×171mm
重量：330g

SENNHEISER / e 945



タイプ：ダイナミック・マイクロホン
指向性：スーパーカーディオイド
周波数特性：40Hz~16KHz
寸法：47×186mm
重量：330g

に一番近いのがe 965かもしれません。音もすごく良く、歌いやすいです！

編：e 965はグリルを開けると、単一指向性/スーパーカーディオイドの切り替えやローカット・スイッチが付いているので、シーンに応じて使い分けができるんです。

小：その時々で切り替えられるというのは便利です！ローカット・スイッチはどんな時にONにすれば良いんですか？

編：低域の不要なノイズや、近接効果を防ぎたい場合がメインでしょうか...。マイクに近づいて歌うと低域が強調されてしまうので、低域が気になる時に調整できるようになっているんです。

小：漠然とですが、コンデンサー・マイクには「レコーディング」というイメージがあるんですが、ライブでも使えるんですか？

編：もちろんです。e 965はスタジオ・クオリティのサウンドをライブ・ステージでも使えるようにした、ライブ・ユースのためのコンデンサー・マイクなんです。当然レコーディングにもパッチリで、実際にレコーディングで使っているボーカリストの方も多いためです。



写真2 SENNHEISER e 965は単一指向性/スーパーカーディオイドの切り替えができます

自然な太さが魅力

ここからはNEUMANNです。NEUMANNと言えば、レコーディング・スタジオで定番のU87Aiといったポーカー・マイクのスタンダードを生み出す老舗メーカーですが、今回はKM 184とKM185という2本のマイクを試してみようと思います。ハンドマイクではないですが、メーカーによると付属のウィンド・スクリーンを付けることで、ポーカーもカバーできるということです。

小：うわぁ、SENNHEISERとはまったく音が違いますが、さっきのマイクのようなクリアさはないですが、何と言うか、すごく魅力的な音だと思います！

編：そうですね。まさにNEUMANNサウンド！という感じの、芯のある太いサウンドですね。では、個別に見ていきましょう。まずKM 184は単一指向性で、ドラムのオーバーヘッドやオーケストラ系の楽器、ピアノの収録などでも使われるモデルで、低域から高域までしっか

SENNHEISER / e 965



タイプ：デュアルダイヤフラム式
ピュア・コンデンサー・マイクロホン
指向性：単一指向性/スーパーカーディオイド切り替え式
周波数特性：40Hz~20KHz
寸法：48×199mm 重量：398g

お問い合わせ：ゼンハイザージャパン <http://www.sennheiser.co.jp/>

り出てくれます。
小：はじめに「ドラム用」と聞いた時は声に合うのか不安だったんですが、良い音ですね。SENNHEISERとは異なる「自然さ」を感じました。プレスの質感がすごく生々しく聞こえるマイクだと思います。でも、少し低域が出過ぎているような...。
編：そういう時はイコライザーでカットしてみましょうか。これくらいはどうですか？

小：随分クリアになりました！こうすると、中域がしっかりしているマイクということがよくわかりますね。SENNHEISERのマイクは高域のクリアさが良かったのに対して、KM 184は中域が魅力的だと思います。
編：とても音楽的ですね。出過ぎている部分はいくらかでもイコライザーでカットすれば良いですが、ない成分をあとから足すことはできません。爆音のバンド・アンサンブルの中で、ハンドマイクで使うようなマイクではないかもしれませんが、弾き語りのようなアコースティック編成の、しっとりとした音楽には合うと思います。では、最後はKM 185です。こちらはドラムのタムやスピーチなどに向けて販売されているモデル。指向性もスーパーカーディオイドです。

小：KM 184で感じた中域はそのままに、声が前に出てきた感じがします！私はこっちの方が好きです。
編：周波数特性的にもKM 184より低域はカットされ、高域のピークが高く、はっきり付けられているので、声が自然にヌケてくる感じですね。

小：聴き比べてみて感じたのは、SENNHEISERが持っているそのままのニュアンスだったのに対して、NEUMANNは自分の歌がうまくなったように感じました(笑)。

エフェクトをかけてみる

編：せっかくなので、エフェクトもかけてみましょう。マイクの音が違えば、当然リバーブのノリも変わってきます。では、まずは定番のSM58から...。

小：やっぱりよく聴く音ですね(笑)。
編：よく聴く音というのは、安心感があると思います。では、SENNHEISERの3本を聴いてみましょう。

小：あ、全然違いますね！SM58よりもSENNHEISERの方がエフェクトと声の一体感が増した気がします。「高級な音」というイメージがより強くなりました。しっとりとしたバラードを歌ったら気持ち良さそうです。
編：マイク自体の音がクリアなので、リバーブも綺麗に乗りますね。では、NEUMANNも試してみましょう。

小：こちら綺麗に聴こえて、SENNHEISERとは異なる、高級な音になった気がします。リバーブをかけたとき、マイクの音の違いがよりわかるようになりました。

NEUMANN / KM 184



タイプ：コンデンサー・マイクロホン
指向性：単一指向性
周波数特性：20Hz~20KHz
寸法：22×107mm
重量：80g

NEUMANN / KM 185



タイプ：コンデンサー・マイクロホン
指向性：スーパーカーディオイド
周波数特性：20Hz~20KHz
寸法：22×107mm
重量：80g



写真3 音楽的なサウンドが魅力のNEUMANN。今回のテストでは歌い慣れている音源を使ってレコーディングを行い、各マイクのサウンドを試聴しました

試聴を終えて

編：ということで、合計6本のマイクを聴き比べましたが、いかがでしたか？

小：大学のサークルでは、マイクはそこにあるものを使うという感覚で、特にこだわりも持っていなかったんです。もちろん、ここまでマイクによって音が違う...ということも知りませんでした。でも、実際このように聴き比べてみると、まったく違うんですね。「値段が高ければ良い」というものでもないんだ...と思いました。

編：自分の声に合っているかということも含めて、「好み」によるところが大きいと思います。ちなみに、お気に入り1本を選ぶとしたら、どのマイクを選びますか？

小：やっぱりSENNHEISERの音が好みだったんですが、その中でも1本を選ぶなら私はe 965です。何より自分が出たいと思っていた音が聴こえたのがe 965だったんです。指向性を切り替えられるというのも便利だと思いました。値段は少し張りますが、それだけの魅力を感じました。

今回聴き比べた6本は、どれも定番として人気を誇るモデル。どれを選んでも、マイクとしてのクオリティは折り紙付きです。しかし、そのマイクの音が自分の求める音かどうかは別問題なので、ここで紹介した結果がすべてではありません。「ただそこにあるマイクを使う」から「この音が欲しいから、このマイクを使う」と、少し意識を変えるだけで、ボーカリストのパフォーマンスは確実にグレードアップします。ぜひ、楽器店で試奏して、お気に入りの1本を見つけてください。